

平成30年度「学校評価」結果（概況報告）

盛岡第二高等学校

【調査結果】

昨年度との比較

「肯定的な評価」（注1）の比率の過年度比較

三者の比較

H30 生徒・保護者・職員間の比較

質問項目	30年度調査			29年度調査		
	生徒 %	保護者 %	職員 %	生徒 %	保護者 %	職員 %
	斜体・ゴシック体=65%未満 下線部=90%以上			斜体=75%未満		
1 教育目標の周知	83	84	100	84	87	97
2 わかりやすい授業の実施	71	73	95	74	76	92
3 学習指導の徹底	66		80	67		89
4 家庭学習・課題の点検	77	66	85	73	67	78
5 応用力のつく授業の実践	67		73	63		69
6 生活のきまりやマナーの遵守	79	86	83	75	90	86
7 生徒会活動や部活動の活発さ	94	94	95	94	94	94
8 勉強と部活動の両立	70	73	83	71	74	67
9 生徒への安心安全の支援	87	79	93	84	79	92
10 登下校時等の安全指導	88	80	95	84	83	94
11 希望進路の実現	83	78	100	85	80	97
12 適性を考慮した進路指導	82	74	98	82	74	97
13 保護者と連携した進路指導	77	67	95	73	70	94
14 二高に入学「良かった」	79	91	(注2) 95	75	90	(注2) 100
15 安全・清潔な学習環境の保持	88	92	100	84	94	97
16 生徒の相談への丁寧な対応	79	80	100	77	79	100
17 生徒の居場所づくり	82	84	100	80	85	94
18 保護者と連携したPTA活動		77	93		78	97
19 地域への貢献	85	86	90	83	90	89
20 学校徴収金の額	(注3) 87	92	95	(注3) 86	91	97

生徒 -保護者	生徒 -職員	保護者 -職員
斜体・ゴシック体=±20以上の差 斜体=±15以上の差		
-1	-17	-16
-2	-24	-22
	-14	
11	-8	-19
	-12	
-7	-4	3
0	-1	-1
-3	-13	-10
8	-6	-14
8	-7	-15
5	-17	-22
8	-16	-24
10	-18	-28
-12		
-4	-12	-8
-1	-21	-20
-2	-18	-16
		-16
-1	-5	-4
		-3

(注1)選択肢「a大いにそう思う」「bそう思う」を合わせて「肯定的な評価」、「cあまり思わない」「d全く思わない」を合わせて「否定的な評価」とした。
(注2)項目14の「職員」は「法令・規範の遵守」 (注3)項目20の「生徒」は「適性や興味関心に応じたコース選択」

【分析1】 全体的な傾向について

今年度も昨年度とほぼ同じような傾向を示した。肯定的な評価が75%以上の項目が多いが、学習と進路に関わる項目で低めの評価が目立つ。生徒の評価において、肯定的な評価が65%未満の項目は昨年度に引き続き項目5の「応用力のつく授業の実践」であった。

【分析2】 評価が高かった項目、評価が改善した項目について

「7 生徒会活動や部活動の活発さ」昨年度と同様に三者ともに90%以上の高い評価。部活動については、全国大会への出場等の結果を残しているだけでなく、どの部活動も生徒の興味・関心に応じた意欲的な活動が展開されている。

「15 安全・清潔な学習環境の保持」「20 学校徴収金の額」今年度も高い評価を得た。15については、毎日の清掃の徹底や、修繕すべき箇所等が出た場合には速やかに対応しているためと考えられる。20については、適正な金額と思われる。

「19 地域への貢献」近隣の幼小中と積極的に連携を取るようにした。また、陸前高田への被災地学習を含め、各種のボランティア活動に積極的に参加している。文化部による各種施設等への訪問演奏も継続している。

「14 二高に入学良かった」今年度も保護者から高い評価を得た。学習や部活動を意欲的に行い、充実した生活を送っている生徒が多いことが高い評価へつながったのではないかと考えられる。

【分析3】 評価が低かった項目、評価が分かれた項目について

【改善策】

「4 家庭学習・課題の点検」昨年度と変わらず保護者から低い評価となった。1学年の保護者からは、課題をもっと出して欲しいとの意見も寄せられている。保護者としては子どもにも勉強して欲しいと思うことは当然のことである。

課題を提出しない生徒が少なからずいる。家庭学習の習慣化を早期に図る。また、家庭での自学(予習等)の大切さも指導していく。

「5 応用力のつく授業の実践」昨年に引き続き生徒・職員で最も評価が低かった。学年を追うごとに学習内容も難しくなり、評価も下がってくる。加えて外部模試等での結果が良くないことにより低評価になったと思われる。

来年度から50分授業となるが「興味関心を持たせる授業」「教えて考えさせる授業」の充実を更に図っていく。

「8 勉強と部活動の両立」昨年度は生徒71%と保護者74%であり、今年度はそれぞれ1%下がっている。職員は昨年度67%から16%伸びて83%だったが、全体から見るとまだ低い評価となっているが、職員の意識として部活動の週1日の休養日が徹底してきている。

更なる文武両道を目指し、週1日の休養日の徹底を図る。進路目標を低学年から意識させ、目的を持って勉強に取り組む姿勢を養う。スマホ等の長時間使用については保護者と協力しながら改善を図る。

「2 わかりやすい授業の実施」生徒・保護者と職員の評価が分かれた項目である。生徒は授業の内容を理解したいと思うのは当然である。分かりやすく、さらに応用力もつけられるような授業を心がけている職員と、初めて学ぶ項目に難しさを感じる生徒の差とも考えられる。

「各時間の目標を共有する」「根拠を示し自分で考えることができる力を付ける」等の更なる授業改善を図り、結果を褒めながら「できる」ことの楽しさを実感できるようにする。

「13 保護者と連携した進路指導」生徒・保護者と職員で評価の差が大きく出ている。三者面談の持ち方を工夫したり、2学年度PTA進路学習会を2日間の実施にしたり、進路通信をこまめに発行したりと改善を図っているが、更に改善が必要である。

進路学習会への保護者の参加率向上、進路希望に応じた情報提供などについて、更に工夫を努める。進路通信等が保護者まで届く工夫も必要。(白梅メールの利用)